



特別区全国連携プロジェクト

北海道町村会、京都府市長会・京都府町村会連携協定締結式 結果について（概要）

1. 開催日時・場所

平成28年4月26日（火） 13:00～16:50
東京区政会館20階

2. 連携協定締結式

北海道町村会、京都府市長会・京都府町村会と多面的な連携・協力を推進することを目的に連携協定締結式を実施

【出席者】

- | | | |
|------------|-------|--------|
| ・北海道町村会会長 | 白糠町長 | 棚野 孝夫 |
| ・京都府市長会副会長 | 綾部市長 | 山崎 善也 |
| ・特別区長会会長 | 荒川区長 | 西川 太一郎 |
| 副会長 | 港区長 | 武井 雅昭 |
| | 板橋区長 | 坂本 健 |
| 幹事 | 千代田区長 | 石川 雅己 |
| | 文京区長 | 成澤 廣修 |
| | 中野区長 | 田中 大輔 |
| | 葛飾区長 | 青木 克徳 |

3. 連携協定締結式あいさつの概要

【西川特別区長会会長】

- ・九州地方で甚大な被害を受けられた、いわゆる熊本地震の発生によってお亡くなりになられた皆様方に心からご冥福をお祈り申し上げます。また、被災されました方々にも心からお見舞いを申し上げます。
- ・国を挙げて一日も早い救援、復興に全力を挙げて取り組んでいるが、特別区長会としても、日ごろ東京の活動を支えていただいている被災地の窮状に鑑みて、全力で支援、ご協力を行うことを申し合わせた。先週の日曜日に熊本市長から私どもに20万本の飲料水の提供や、紙おむつ、または簡易トイレ、毛布などの物資について、協力要請があり、4月18日（月）からご要望のあったものを熊本に輸送した。
- ・全国各地とも連携を密にして、被災地を支援する活動の一翼を担ってまいりたい。
- ・特別区は、北海道町村会並びに京都府市長会及び京都府町村会と連携協定を締結する運びとなった。本日はお忙しい中、当該地区よりお越しいただき、ありがたく存じている。
- ・この連携運動は、平成26年9月からスタートした特別区全国連携プロジェクトの取組として、お互いの地域のウイン・ウインの関係を継続的に発展させていこうという思いのもと、東京発の新たなきずなを全国の自治体の皆様にご理解いただき、しっかりと結んでいきたい。

- ・全国の発展、成長のために、共存、共栄を図るために立ち上げたプロジェクトであるが、今、我が国は超高齢化社会であり、あわせて超少子化社会でもある。人口減少社会を迎える中で、地域の崩壊という少し大げさかもしれないが、そうした傾向や経済の衰退などが懸念されており、地域の活性化が求められている時代である。国もこれを課題として捉え、地方創生に力を注いでいる。23区においても、首都直下型地震への対応など、そのほか多くの課題を抱えながら、2020年のオリンピック・パラリンピック開催を契機とした大きな変革期を迎えている。
- ・特別区は、人材の交流はもちろん、経済、生活全般にわたり、全国の自治体の皆様に支えられて成り立っている。全国各地域あつての東京である。互いのよいところを生かして、学んで、そして足りないところを補完し合って、全国地域と東京が課題をともに克服していかなければならない。東京を含む全国各地域が生き生きとしたまちづくりを進め、ともに発展し、成長し、共存、共栄を図っていくことが今後重要な課題である。それが日本の元気につながると私どもは考えている。
- ・こうした趣旨から特別区長会では、全国各地域との信頼関係、きずなをさらに強化した、そして双方が発展していくために、東京を含めた全国各地域と連携して、キャピタルフライトやその他の問題に直面している各地域が経済を活性化し、まちの元気を取り戻せるように、我々は知恵を絞ってこの特別区全国連携プロジェクトをご理解いただき進めていきたい。
- ・今回ご縁があつた北海道町村会とは、全国連携の趣旨にご賛同いただき、昨年6月に区長会の役員同士の意見交換会を行ったことを皮切りに、特別区との連携事業の取り組みを重ねてきた。この3月、北海道新幹線が開業いたしたこともあり、これからの取組への明るいニュースとして喜ばしいことである。
- ・京都府市長会・京都府町村会とは、荒川区の進めている幸せリーグでのご縁がもとで、京都府市長会会長の中山京丹後市長から、お互いの地域の持続的な発展を目指していきたいというお話をいただいたのがきっかけで、京都府町村会ともご縁がつながって、本日に至っている。
- ・特別区としても、特別区長会としても、本日の協定締結によって新たなステージへの扉が開かれる可能性は大いなる期待感を持っており、本プロジェクトの趣旨にご理解、ご賛同いただくことに深い感謝の念を持っている。
- ・この協定では、各地域の置かれた状況を尊重することを基本に、多面的な連携・協力を推進していくことで、お互いが発展、成長しながらウイン・ウインの関係、共存、共栄を目指すことを目的としている。
- ・そのための取組として、身近なところでは特産品の販売や、地域、住民同士の交流を促進するイベントをはじめとして、あらゆる面から連携・協力の可能性を模索しながら着実に取組を進めていき、継続していくことによって、今後、同じ志を持つパートナーとしてウイン・ウインの関係を築く礎になればと考えている。
- ・今回の協定締結を契機に、これからお互いに真摯に向き合い、創意工夫を重ね、さまざまな取り組みを進め、皆様との連携・交流が持続的に深まることを願っている。特別区としても、今後、23人の区長が一致団結して北海道、京都府の皆様や全国の皆様と手を携えながら、元気な日本をつくる一助となるよう微力ながら努力していく。

【棚野北海道町村会会長】

- ・西川会長からもお話があったが、九州、熊本県を中心とする被災地の皆様方に、西川会長から丁寧に、非常に心のこもったお言葉があった。私たちも同じ思いであるので、同じ心を添えさせていただきたい。
- ・今日この協定調印式を迎えるに当たり、私どもは非常に今後の期待と喜びでいっぱいである。昨年6月、内閣府のご紹介、縁もあって、特別区長会が全国連携プロジェクトを実行しているという話があり、そのご縁をいただき、懇談の席を設けた。その時に皆様方と非常に貴重な意見の交換をさせていただいた。
- ・その後、西川会長の非常に熱い、強いお気持ちをいただき、まずできるところから何でもいから一歩やってみようではないかというお話があり、我々北海道町村会、そして東京23区と、現在まで8つの北海道のまちではなくてエリア、地域が今いろいろな交流をさせていただいてきている。大変ありがたく思っている。
- ・この特別区と我々北海道町村会が、今後いろいろな意味で交流していきたいという思いが伝わり、高橋北海道知事がこれは何としても応援したい、北海道庁も一緒になってこのプロジェクトに取り組んでいきたいという、非常にありがたく心強い支援もあり、その後、全道35の市からなる北海道市長会も、北海道はエリアとしてあり、市も関連するところは一緒になって応援しますと、いわゆるオール北海道として、この度特別区長会の皆様と交流、そして調印に臨ませていただいているというところである。まず、この間のご尽力をいただいた西川会長を初め、区長の皆様方に心から感謝を申し上げ、今後ともよろしくお願い申し上げたい。
- ・今、私たちの北海道も少子化、人口減少という中で、新たな地域づくり、北海道づくりが求められ、そしてまた地方創生という総合戦略を立てた中で、地域づくりをやっていこうという時に差しかかっている。そういった中であって、今回の全国連携プロジェクトの中で、我々が一緒になってそのことを実現していく手段を持つということは、我々にとっては非常にありがたいことであるし、プロジェクトにとっても、我々からすると時宜を得た取組ではないかと敬意を表す。
- ・そういう中であって、今後、非常に大事なこととして、我々北海道は、遠隔地という表現は余りよくないが、東京からすると、歴史的な経過からいって、どうしても距離感がある。それは我々北海道からみての距離感である。やはりPRの仕方がどうしても今までは不足していたということは否めない。従って、こういう距離感をいかに埋めていくか、そして、北海道という面積が非常に広いというハンディキャップをいかに埋めていくか、そのことを考えた時に、今回23区の皆様方と提携、交流ができるということは、それを埋めていくためにとっても大きな我々の手段になっていくのではないかという思いでいる。裏を返すと、もちろん我々の努力が必要である。そういった意味で今回の調印、提携は非常にありがたい。そしてまた頑張らなければならないと思っているところである。
- ・我々としては、今、西川会長からお話があったように、お互い交流して、いろいろな交流がある。一歩進むといろいろなものが生まれてくると思っている。将来に向けて、今、お互いウイン・ウインというお話があったが、それに加えて、一歩一歩進めて、急がないで、そして将来連携してよかったなと思ってもらえるような交流につなげていきたいと思っているので、今後においても皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

【山崎京都府市長会副会長】

- ・先程お話があったように、熊本地震に関して、京都府市長会としても、人的な支援、物資の支援等、最大限の支援をさせていただいていること、冒頭ご報告申し上げます。
- ・本日、ご縁があつてこういった連携プロジェクト、協定書に調印ができましたこと、大変うれしく思っている。西川会長をはじめ、ご支援、ご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。
- ・東京というのは日本の顔だと私は思っている。国内的には中心であるし、また世界に向けた国際的な都市としての一面も持っている。そういう意味では、顔は美しく、元気で、輝いていなければいけない。それは当然のことであるけれども、顔だけでは元気になれない。やはりそれを支える体、手足、内臓がしっかりないといけない。それをあえて地方というならば、地方まで、隅々まで血液が流れて循環していく中で、美しい顔、東京が維持できると私は思っている。
- ・2020年のオリンピックに向けて、ますますそういった要素は強くなってくると思う。そういう中で地方創生が叫ばれて久しいが、京都府市長会としても、今回の連携を1つの機に、東京にないもの、そして地方にあるもの、京都にあるもの、京都になくて東京にあるもの、ないもの、いわゆる足りないものをお互い補う。先程西川会長が言われたウイン・ウインの関係で、お互いに補完し合えるような関係を構築していければということ強く願っている。
- ・ただ、一方で、これだけのいろいろな人的な交流がある中では、もうそれぞれがいろいろなつながりがあると思う。私事だが、自身も東京でついこの間まで30年、大手町で働いており、Uターンしてこういう立場にいるわけであり、東京には本当にいろいろな関係者がいる。個々にいろいろな行政なり、人的なり、関係者がいるのを、私はこういう1つの連携・協定を結ぶ枠組みをつくることによって、太いパイプをつくる、そういう枠組みを地方都市同士がしっかりと結ぶということがある意味受け皿をつくっていくという意味では大切だと思っている。この枠組みの中で人的なもの、あるいは市民レベルのもの、特産品であったり、人の動き、お金の動き、これから何をこの大きな枠組みの中で生かしていくか。そこはこれから知恵と工夫を凝らしていかなければいけないと思うが、こういった枠組みをしっかりとつくる中で、これからの連携を深めていくということは大きな意義があると私は思うし、これはまさに地方創生の1つの生き方ではないかと思っている。
- ・京都府は南北に長い地域である。京都府といわれると、京都市がどうしても皆様のイメージにあるかと思う。もちろんここは伝統、歴史、文化の拠点である。文化庁の移転等々、これからあるわけだが、一方で北部、あるいは南部には豊かな自然、海、山、おいしい食材等々がある。そのような地域の資源を今回の連携の枠の中でお互いがシェアできるような体制をつくっていければと思っているので、これからいろいろとお世話になるけれども、よろしく願い申し上げます。

4. 連携協定締結式の様子



【 北海道町村会と特別区長会の協定 】



【 京都市市長会・京都府町村会と特別区長会の協定 】



【 連携協定締結式 】



【 連携協定締結式 】